



自分に挑戦! チャレンジ南関中

2020年7月17日発行

文責 樹本



夢を描き、絆を深め、自分に挑戦する生徒の育成～輝きと潤いのある学校づくりをめざして～

2020年度 身に付けさせたい力
夢(自分の未来を創造する力)・絆(相手意識をもった適切な対応力)・挑戦(自ら考え、自ら行動す

～教育実習生 紹介～

嶋永 有沙(しまながありさ)先生

鹿屋体育大学 体育学部スポーツ課程 4年
7月13日から31日までの3週間の予定で、教育実習を行っています。嶋永先生は、2014年3月に南関中学校を卒業しています。中学校時代は、陸上競技(長距離)の選手として活躍し、さらに陸上の技能を伸ばしたいと、熊本信愛女学院高校⇒鹿屋体育大学へ進学しています。夢を追いかけて日々努力している先輩が、母校に帰ってきました。たくさんお話をし、いろんなことを学んでください。



～ 校内人権集会(7/16) ～

南関中学校では、年間5回の人権集会を行っています。今回の目的は、

- ① 南関中人権宣言にふれることにより人権が大切にされる南関中にしようとする気持ちを高める。
- ② これまでの人権集会で学んだことや、講話を聞いて感じたこと、考えたことを踏まえて、自分なりの人権宣言を書く。
- ③ 今年度最初の人権学習の取り組みとして位置づけ、今後の学習や活動につながる機会とする。

集会の流れは、

まず、生徒会三役が、「南関中人権宣言」(裏面掲載)を、全校生徒に対して読みあげました。この人権宣言は、平成25年度に生徒会を中心に作成されたもので、現在も引き継がれています。ご一読ください。

次に、村田圭一先生が、講話をされました。

講話の内容は、教え子が高校3年生の時に就職試験で不適切な質問を受けたこと。そして、その質問に対して「高校からの指導により、その質問にはお答えすることができません」と断言したことです。

村田先生が今回伝えたかったことは

- ① 自分の責任ではないことで、自分を判断されることのおかしさ
- ② 全国高等学校統一応募用紙「言わない、書かない、提出しない」取り組み
- ③ 全国高等学校統一応募用紙の保護者欄に20年間、斜線を引いた熊本県の取り組み
- ④ 正しいことをやり続けることの大切さ、それぞれが制度や社会を変えることにもつながること

集会を終えて、

生徒会の齋田流音さんが、全校を代表して反省を述べました。「(中略)私は、間違っていることやおかしいと思うことに言い返すことができません。今回の話を聞いて、自分の意見を言うことの大切さを学びました。」

感染対策のため全校生徒が集まることができず、校内放送による集会となりましたが、村田先生の話をしっかり聞いて学びのある集会となりました。

～ 熊本県は「英語教育日本一」を目指しています ～



熊本県は、グローバル人材の育成に向けて、さまざまな英語教育の事業を行っています。その中の一つに、中学生が英語検定試験を積極的にチャレンジすることをすすめています。本年度最初の英語技能決定が、7月17日(金)に行われ、本校から5級8人・4級5人・3級7人・準2級1人が受験しました。

折金員舎格

～ 3年生「薬物乱用防止教室」実施(7/15) ～



講師の坂井先生

例年、3年生を対象に「薬物乱用防止教室」を行っています。今回は、学校薬剤師の坂井博則(さかい ひろのり)先生が指導されました。「薬物乱用」と聞けば、違法薬物を連想してしまいがちですが、それだけでなく通院したときに病院から処方される薬の基本的な知識についても学びました。また「うっかりドーピング」では、風邪薬のなかにも、ドーピングとなる成分が含まれているという興味ある内容も聞きました。

～ 書くことの大切さ、つくづく実感 ～



6月26日(金)は、全校で用語(漢字)大会に取り組みました。問題は50問で、内容も1年生までに習ったものです。各学級が、学級平均の学校1番をめざして頑張りました。一ヶ月前から問題を配布して取り組んだこともあって、全体の54%の人が満点をとることができました。あと一歩で満点の人もたくさんいました。次回用語大会での頑張りを楽しみにしています。そのような中、気になるのは自分自身の記憶力の衰えです。適切な漢字がすぐに浮かんできません。浮かんできても、これで良かったか不安になります。年齢に伴う脳の衰えもありますが、一番の原因は、文章を手書きする機会が全くなかったことです。ほとんどの文章は、パソコンで作成します。「変換」キーを押すことで、すぐに文章にふさわしい字が出てきて、それが正しいか間違っているか、全体的な感覚で判断するようになったため、いざ書こうとするとすぐに書けません。小・中学校の頃、よく言われました「書いて覚える」、今書くことの大切さを実感しています。便利がゆえに、衰えるばかりの自分があります。通信を毎回手書で発行する先生がいます。私も、この先生を見習って手書きの文章を時々書かねばと反省しています。